

シニア世代&支える人たちのための生活応援情報誌

ケアケア presents

早春号
2011.3
無料

S-posi

エスポジ

エンディングノートの発案者

NALC早野矢須男氏インタビュー

おおさか法務の

老後のお金 **よろず相談所**

高齢者の食事を応援する

注目サイト「**介護食.NET**」

バリアフリーな宿

「**青山やまと**」(静岡・伊東温泉)

「**御幸荘 花結び**」(兵庫・有馬温泉)

ケアケア通信

小規模多機能ホームの可能性を探る

「**良の家**」(滋賀・坂本)

記者が見つけたおすすめ施設

「**癒しの高槻館**」(大阪・高槻)

人生をふり返し、次の世代に思いを伝える
エンディングノートを
書いてみよう



¥FREE

ご自由にお持ち帰りください

「遺すほどの資産はないから遺言書なんて不要」という人は多いだろう。だからといって、遺された人へ感謝の言葉一つも遺しておかないというのは、なんだか後悔しそうな気がする。

一方、公正証書遺言として遺言書を作成しても、そこに記載されるのは財産分与など事務的な内容が中心となる。遺された人への様々な想い

遺された人への想いを伝える手段として

は、遺言書の末尾に付言事項として、ほんの数行記載できるだけに、伝えておきたいことがここにすべて収まるとは、なかなか考えづらい。

そうなるも、もっと気軽に心の声を遺す手段があればいいのにな、というのが心情。

電子遺言バンク株式会社は、月額利用料だけで使える、インターネットを介した手軽な伝言手段として、いま密かに人気を集めているサービス。

財産目録はもちろん、通帳

などの保管場所、もしもの時に連絡してほしい人などを記載しておく交友録から自身、親族などへ伝えておきたいメッセージなどを、様式にしながら入力するだけで遺しておく。

入力した情報は本人の没後、あらかじめ設定しておいた受取人が、本人の死亡証明書などとともに開示請求を行って受け取ることができる。もちろん配偶者や数人いる子どもなど、受取人は法的相続人であれば複数人設定すること

も可能だ。

最近ではシニア世代でもパソコンを扱える人が増え、これからはもっと、インターネット環境は身近な存在になるだろう。そんな時代に、自分の想いをインターネットで遺すのも一つの手段。あらたまって言うのが恥ずかしかったことも、これならすっかり、伝えることができるはずだ。

e遺言.com
 <利用料>
 月額利用料525円(カード決済)
 年払い一括振込の場合、年間利用料6,000円
 ※受取人を複数設定する場合は、追加1名につき登録料と年会費が必要

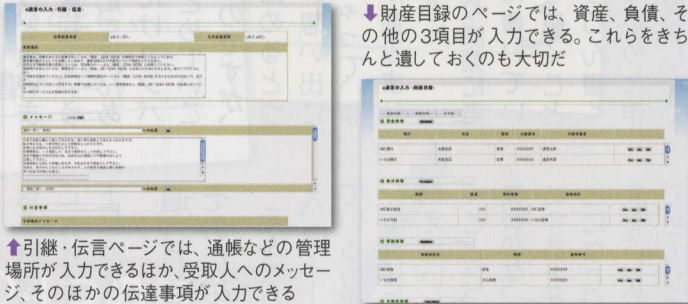


↑電子遺言バンク株式会社代表取締役の藤田昌三氏

http://www.eyuigon.com/
 運営/電子遺言バンク株式会社



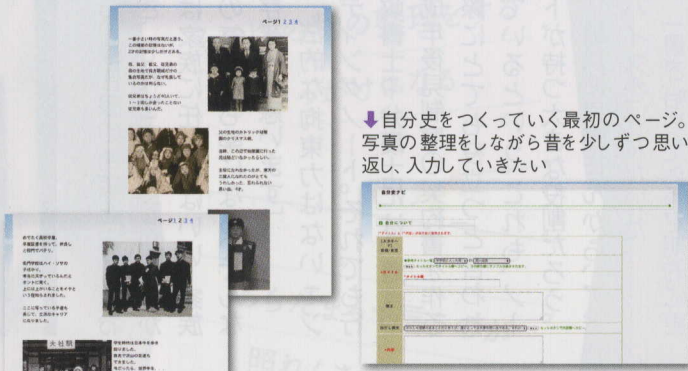
↑「e遺言」のトップ画面。利用する前にお試し版が体験できる点がいい。利用者や専門家の声も参考にしてみよう



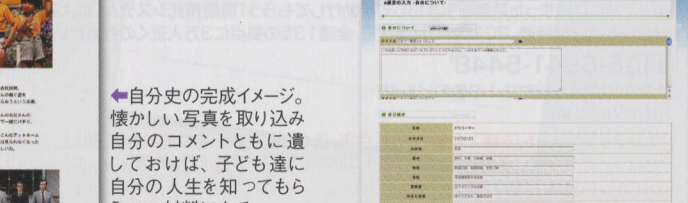
↓財産目録のページでは、資産、負債、その他の3項目が入力できる。これらをきちんと遺しておくのも大切な

↑引継・伝言ページでは、通帳などの管理場所が入力できるほか、受取人へのメッセージ、そのほかの伝達事項が入力できる

インターネットで遺す、送る自分自身のメッセージ



↓自分史をつくる最初のページ。写真の整理しながら昔を少しずつ思い返し、入力していきたい



←自分史の完成イメージ。懐かしい写真を取り込み自分のコメントとともに遺しておけば、子ども達に自分の人生を知ってもらえるという材料になる